

重岡 徹 (SHIGEOKA, Tetsushi)

教授

博士 (農学)

- 1960 熊本県熊本市生まれ
- 1986 明治大学大学院農学研究科 修了
- 1986 (財) 過疎問題調査会 研究員
- 1993 (社) 農村環境整備センター 主任研究員
- 2008 農研機構農村工学研究所選考採用
農村環境部景域整備研究室、
農村基盤研究領域資源情報・資源評価ユニット
施設工学研究領域地域防災ユニット
- 2017 技術移転部 教授



研究者の横顔

<転々としてきました>

2008(平成20)年に農工研に採用頂いてから今年の3月で11年になります。大学、大学院では農村社会学を勉強し修士を出てすぐは過疎地域活性化に関する調査研究にかかわりました。その後、博士課程への進学等で時間を費やして、平成に入って間もなくの頃に農村環境整備センターに就職し、農業土木の世界に足を踏み入れました。センター時代は農村景観配慮の手引き、棚田百選の選定、整備事業の合意形成手法などの業務に携わりながら、農業農村整備や農村振興について勉強する第二の就学の日々でした。そんな折、センターの専門委員をされていた山本前理事から農工研にお誘い頂き、社系人間にもかかわらず農工研で研究する場を頂き、今日に至っています。

<地域防災力の研究と出会って>

農工研にきてしばらくは、自分の専門から農業農村工学にどのようにアプローチしたらいいのか悩んでいました。3.11の東日本大震災、ゲリラ豪雨の頻発等の自然災害に対応すべく地域防災研究が強く求められるなか、集落社会の災害リスク対応能力の向上という課題を頂き、私なりの研究の糸口が見えてきました。資源情報と資源評価ユニットの皆さんの助言に支えられ漸く成果としてまとめられたのが「スマートフォンを活用した簡易雨量観測システム」です。また地域防災ユニットの皆さんに支えられて「我がこと防災意識醸成による地域防災力の維持・向上」の成果にこぎつきました。地域防災力の研究は、住民の農地・水資源への関心を高めることから自主防災意識の向上を目指す過程をICT活用により円滑にしようとする内容ですが、この課題で初めて農村社会学から農業農村工学へのブリッジが見通せたようです。ただ、技術音痴の私がスマートフォンなどのICT活用を云々していることには依然として戸惑っています。。

<寂しい単身赴任>

現在、単身赴任生活は11年目に入ろうとしています。単身生活は解放感に満たされ素敵な官舎暮らし(?)を過ごしています。仕事を終え、官舎に戻り、夕食、お風呂を済ませた後、パイプを燻らせてウイスキーを飲む。最近のごくたま〜に葉巻を嗜む。あ〜なんと贅沢な時間。などと言えるのは月1回ぐらいで、ほぼ毎日は自炊や洗濯のしんどさに耐え忍んでいる侘しい単身生活です。パイプ集めと素人的JAZZ鑑賞を細やかな楽しみとして、日々之好日をモットーに過ごしています。